



## 副院長就任のご挨拶

旭川赤十字病院 副院長 片田 彰博

2026年4月1日付で旭川赤十字病院副院長を拝命いたしました片田彰博と申します。私は1992年に旭川医大を卒業し、同大の耳鼻咽喉科に入局しました。大学院修了後は旭川厚生病院で2年程研修し、1999年に旭川医大に戻って約25年間勤務しました。当院には2024年1月に耳鼻咽喉科部長として赴任しています。当院の勤務で痛感していることは、この病院に勤務されている医師、看護師、技師、事務の方々のスキルとモチベーションが非常に高く、とても働きやすいということです。当院職員の皆様、ならびに多くの症例を紹介いただいている連携医療機関の皆様に心より感謝申し上げます。

耳鼻咽喉科は聴覚、嗅覚、味覚、平衡覚などの“感覚”に関連する臓器を診療の対象にしていますが、私が専門としているのは“喉頭科学”であり、摂食・嚥下障害や音声・言語障害に関する診療を重点的におこなっています。最近のトピックスとして認知症の予防には難聴の管理が重要であることや、日本人の死亡原因として誤嚥性肺炎が増加していることなどを考えると、高齢者の生活の質を維持しながら、認知症や誤嚥性肺炎のリスクを減少させるために、我々耳鼻咽喉科が果たすべき役割は非常に大きいと考えます。また、当院は肥満症患者に対する治療を積極的に展開しています。我々も糖尿病内科、循環器内科、消化器外科などと連携し、2026年1月から肥満症患者の多くが罹患している睡眠時無呼吸症候群の診療を開始しました。これからも連携医療機関の皆様のお役にたてるよう務めていきますので、どうぞお気軽にご相談ください。

今後は耳鼻咽喉科としてだけでなく、副院長としてこの病院の発展のために尽力してまいります。旭川市の人口は1986年の約36万5千人をピークに減少し続けており、2035年には約28万3千人になるといわれています。その一方で1986年には約10%だった65歳以上の人口比率が、2035年には約40%になると予想されています。これからはこのような人口減少や年齢構成の変化、そして気候変動による自然災害の増加などに対応していかなければなりません。さらに、救命救急医療体制の拡充や災害時の救護活動への貢献を継続しつつ、地域の皆様が求める医療サービスを提供していくことが当院の使命だと痛感しています。浅学非才な私ですが、これまでの経営改善、地域連携、医療安全、医療倫理などの経験を皆様と共有し、病院長や他の幹部職員の方々をサポートしながら、旭川赤十字病院と日本赤十字社がますます発展するよう頑張りますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。